

家人はある名僧をたずねて、この娘の命について聞いたところ「それは蛇の邪霊のたたりだ。心配するこ  
とはない。五月五日の節句の日によもぎとしょうぶをとつてきて、それを風呂呂に入れ、娘に入浴させるがよい。」  
といわれてきたという。それで早速娘を薬湯に入れたら、たくさんの蛇の子が腹から出て、娘はうす紙をはがすよう  
に生気を取り戻し、蛇もこなくなったという。あとで祠をたてて、蛇の霊を祠ったということだったど。  
節句によもぎと、しょうぶの湯をわかすならわしは、そのときから起きたんだど。